氏　名（本籍）	佐　名　木　宏　美　（京都府）
学 位 の 種 類	修　士（看護学）
学 位 記 番 号	修　士　第 ９３ 号
学位授与年月日	平成１９年3月２６日
学位論文題目	糖尿病性腎症から透析となった患者の障害受容とアドヒアランス行動 ―Locus of Control との関連について―

別紙様式３

論　文　内　容　要　旨

※整理番号	95	(ふりがな) 氏　　名	佐名木　宏美（さなき　ひろみ）
修士論文題目	糖尿病性腎症から透析となった患者の障害受容とアドヒアランス行動 -Locus of Control との関連について-		

目的

糖尿病性腎症から透析となった患者(以下、DNHD 患者)の障害受容とアドヒアランス行動の関係について探索する。また、障害受容とアドヒアランス行動が Locus of Control とどのように関係しているかを確認する。

方法

DNHD 患者 212 名を対象に、個人属性、治療に関するデータ、Locus of Control、障害受容度診断検査、HbA1c、体重増加率など 63 項目を収集した。収集したデータについて、記述統計・2 変数の相違・相関関係・因子分析を統計パッケージソフト SPSS11.0 J for Windows で実施し、分析検討を行った。また、確認的因子分析と因果モデル図の検証を共分散構造分析で実施した。

結果

記述統計および 2 変数の相違から、本研究対象者の特徴を明らかにすることができた。本研究対象者は、男性が多く、また就業率が低く、社会参加している傾向が低かった。また、視力障害を有している患者の割合が多かった。相関関係からの結果は、アドヒアランス行動に関係する要因を特定することができなかった。Locus of Control からは、外的統制傾向が確認できた。また、障害受容度診断検査からは、4 因子が抽出された。その後、確認的因子分析および因果モデルの検証は共分散構造分析専門ソフト Amos5.0 を使用して検討を行ったが、明らかな因果関係を特定することはできなかった。

考察

本研究対象者は、障害受容とアドヒアランス行動を結びつけて考えておらず、障害に対して積極的に対処している状態ではなかった。しかし、障害の進行を防ぎ、さらに患者の自己実現のためには、障害受容が重要であるとの示唆を得た。また効果的な障害受容は、アドヒアランス行動に繋がる可能性も示唆された。

総括

1. 糖尿病性腎症から透析となった患者の障害受容とアドヒアランス行動の関係を探索した結果、特定には至らなかった。しかし、特定できなかったことから、患者は進行する障害への思いを自分自身で強く感じていない可能性がある。その思いは、進行する障害を阻止もくしは遅延させるためのアドヒアランス行動には繋がっていなかった可能性が示唆された。
2. 行動の信念である Locus of Control は、障害受容とアドヒアランス行動との強い関係および影響要因となるものではなかった。
3. 患者は様々な制限や障害を有しながら生活する病者であり同時に障害者でもあるが、その中で葛藤しつつも、実存性を保ちたいという思いの中で生活している可能性が示唆された。
4. 患者は、障害を有する自分という存在を、他者や社会に理解して欲しいという思いで日々生活している可能性が示唆された。

（備考）１．研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。（1200 字程度）
２．※印の欄には記入しないこと。